



©2022 SANRIO CO., LTD. APPROVAL NO. L630678  
「ハローキティ」はフコク生命のイメージキャラクターです。

# News Release

すてきな未来応援します

**フコク生命**

2022年6月15日

富国生命保険相互会社

## サステナビリティに対する考え方および TCFD 提言への対応について

富国生命保険相互会社(社長 米山好映)は、サステナビリティに対する考え方および気候関連財務情報開示タスクフォースの提言(以下、TCFD提言)への対応についてまとめましたので、お知らせします。

引き続き、安心して持続可能な社会の実現に向けた取組みを推進していくとともに、取組状況に係る情報開示を進めてまいります。

### 1. サステナビリティに対する考え方

#### 相互会社組織での経営

#### ～超長期のサステナビリティを求めて～

当社は創業以来、相互会社形態を堅持する日本で唯一の会社です。

当社の実質的な創業者である第二代社長の吉田義輝は、「ご契約者本位」という想いのもと、相互会社形態にこだわりました。それは、ご契約者が保険団体を構成し互いに助け合う“相互扶助”が保険の精神であり、相互会社は、この“相互扶助”の精神から生まれたご契約者を中心とする組織だからです。

国民生活に密接に関連した公共性の高い生命保険業は、超長期のサステナビリティを前提とします。従って、株主がいらないため過度な成長ではなく、お客さまを守るための成長を志向できる相互会社形態が生命保険業には最も適していると考えております。

当社は、超長期のサステナビリティを求め、相互会社として生命保険業を営んでおります。生命保険は、お客さまとの一生涯にわたる、さらには世代を超える約束であり、終わりのない仕事です。未来永劫お客さまとの約束を守るためには、会社が持続的に成長し存続していかなければなりません。

その前提として、持続可能な社会が必要であり、こうした社会をつくっていくための企業活動は当然のことと考えます。“相互扶助”の精神にもとづく企業活動の一つひとつを通じて、安心して持続可能な社会の実現を目指してまいります。

## 2. フコク生命とステークホルダーとの関係図

“相互扶助”の精神にもとづく企業活動

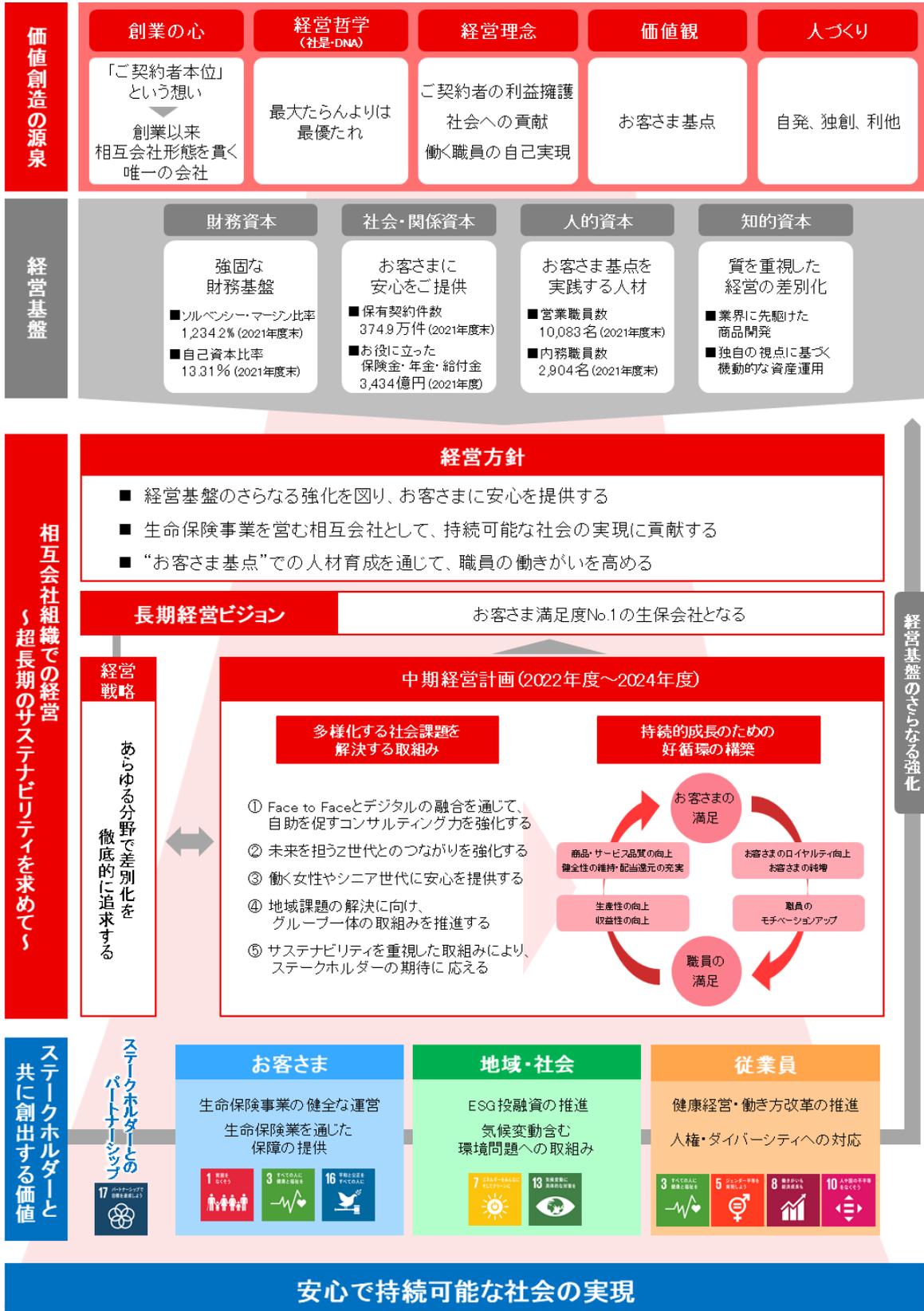


## 3. 優先取組項目の設定

「事業との親和性」、「ステークホルダーへの影響度」の観点から、以下7項目を優先取組項目に設定し、安心して持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

	優先取組項目	ステークホルダーとのパートナーシップ	対応するSDGs
お客さま	1 生命保険事業の健全な運営	7 ステークホルダーとのパートナーシップ	1 貧困をなくそう
	2 生命保険業を通じた保障の提供		3 すべての人に健康と福祉を
地域・社会	3 ESG投融资の推進		7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに
	4 気候変動含む環境問題への取組み		13 気候変動に具体的な対策を
従業員	5 健康経営・働き方改革の推進		3 すべての人に健康と福祉を
	6 人権・ダイバーシティへの対応		5 ジェンダー平等を促進しよう
			17 パートナーシップで目標を達成しよう
			10 人や国の不平等をなくそう

#### 4. フコク生命の価値創造プロセス



## 5. TCFD提言への対応

当社は、2020年6月にTCFD提言への賛同を表明しました。TCFD提言への賛同は、気候変動問題の重要性を認識したうえで、安心して持続可能な社会の実現を目指す当社の姿勢を表明するものです。

	TCFD提言への対応
ガバナンス	サステナビリティワーキンググループにて、気候変動問題を含むSDGs取組状況のモニタリングを行い、取締役会に報告しております。
戦略	<p>気候変動関連リスクの適切な管理を通じて、収益の下振れを抑制するとともに、収益獲得の機会としても活用してまいります。</p> <p>【リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地球温暖化に伴う台風や洪水などの自然災害の発生による保険金等の支払増加や、平均気温上昇に伴う蚊を媒介とする熱帯性感染症などの発生による疾病罹患率・死亡率の上昇（物理的リスク）</li> <li>低炭素・脱炭素社会への移行に伴う政策変更や技術革新などによる投融資資産の価値の毀損（移行リスク）</li> <li>気候変動問題の主因である温室効果ガスの排出削減に取り組まないことによる評判の悪化（風評リスク）</li> </ul> <p>【機会】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>気候変動がもたらす様々なリスクによる保障ニーズの増加</li> <li>気候変動問題の解決に資する企業やプロジェクトへの投融資による運用収益の獲得機会の増加</li> <li>減災などの取組みによるステークホルダーからの評価の向上</li> </ul>
リスク管理	<p>地球温暖化および大規模水害に伴うリスクをエマージングリスクとして特定し、発生の可能性と影響度の評価を行い、統合的リスクの観点で管理しております。</p> <p>【物理的リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>平均気温の上昇による熱帯感染症の流行についてシナリオテストを実施し、保険金および給付金の増加額の定量的評価を行い、財務への影響を確認</li> <li>大規模水害（高潮および洪水）について営業拠点ごとのリスクを5段階で評価</li> </ul> <p>【移行リスク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>低炭素・脱炭素社会への移行に伴う政策変更や技術革新などにより生じる信用リスクや市場リスクの適切な管理とその高度化</li> </ul>
指標と目標	<p>【生命保険事業者】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>事業活動に伴うCO2排出量について（社有不動産及び賃借事務所の消費エネルギーを換算）、2030年度までに2013年度比46%削減、2050年度までにネットゼロ</li> </ul> <p>【機関投資家】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>運用ポートフォリオにおけるCO2排出量について（国内上場企業の株式・債券・融資を対象）、2050年度までにネットゼロ</li> </ul>

以上